



Title	抽象名詞の計量的語誌データ：雑誌と新聞の経年コーパスを見比べる
Author(s)	金, 愛蘭
Citation	現代日本語研究. 2024, 15, p. 24-42
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/98461">https://doi.org/10.18910/98461</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 抽象名詞の計量的語誌データ

## —雑誌と新聞の経年コーパスを見比べる—

Quantitative Historical Data on Abstract Nouns: Comparing Chronological  
Corpora from a Magazine and a Newspaper

金 愛蘭  
KIM Eran

キーワード：計量的語彙史研究，通時コーパス，語誌，意味分野，雑誌，新聞

### 要 旨

国立国語研究所報告 89『雑誌用語の変遷』は、「第4章 語誌」において、同じ意味分野（『分類語彙表』の分類番号）に所属する語群ごとに、それぞれの使用度数の新古ないし増減の傾向を比較している。本稿では、このうちの分類番号「1.1」に属する抽象名詞に限って、自作の『毎日新聞経年コーパス』を用いて増減傾向を調べ、『雑誌用語の変遷』が「すこしでも変化の可能性があるところには、積極的に注意する」とした語群を中心に、雑誌と新聞両データの傾向を見比べたものである。ただし、両者は、調査対象のジャンル、調査年、調査単位がいずれも異なるため、厳密な意味での比較はできない。本稿は、この種の調査結果が提供されていない現状にあって、将来の大規模な調査に向けて何らかの「ヒント」を提供し得るにとどまる。

### 1. はじめに

国立国語研究所報告 89『雑誌用語の変遷』（国立国語研究所 1987）は、近代日本語の変遷を知ることが目的として、雑誌『中央公論』の1906～1976年の分から、10年おきに各年延べ1万語を抽出して経年的な調査を行い、文体、文法、表記のほか、語彙については、1）各年度の度数分布、2）各年度の類似度、3）語彙の安定度、4）語種分布の変化、5）品詞分布の変化、6）漢語の語

構成、7) 外来語の原語、8) 特徴的な単語、の各項目についてその変化を明らかにしている。また、その第4章は「語誌」にあてられ、「おなじ意味分野に属する単語のうち、どのようなものがふえ、またへったか」が論じられている。ただし、これについて、調査を担当した宮島達夫は次のように述べる。

1年1万語、という範囲で個々の単語の増減を論じるのは、もともと無理である。この標本にあらわれたかぎりでは、増減はあきらかだが、われわれが本当にしりたいのは、標本の裏にある母集団、つまり、その年の雑誌全体をとおしての使用度数がふえたかへったか、ということである。しかし、各年に数例しかないものについて、統計的に検定をすることはできない。潔癖な態度をとれば、この程度の数字では、なにもいえないのである。しかし、歴史的な変化についての調査結果が提供されていない現在、そういつてしまうのは、おしい。将来の大規模な調査のために、このデータがヒントになることも期待できる。それで、すこしでも変化の可能性があるところには、積極的に注意することにし、かならずしも「……かもしれない」「……ようにみえる」といった表現をとらなかった。(国立国語研究所 1987:88)

本稿は、宮島がこのような考えから提示した意味分野別の語誌データのうち、『分類語彙表』の) 分類番号「1.1」に属する抽象名詞について、自作の『毎日新聞経年コーパス』を用いてその増減傾向を調べ、『中央公論』データのそれと見比べられるようにしたものである。

『毎日新聞経年コーパス』の規模は、『中央公論』データのおよそ60倍と推定され(金 2022:236)、宮島が「1年1万語、という範囲で個々の単語の増減を論じるのは、もともと無理である」とした「語誌」の調査においても有意味な傾向がとらえやすくなっているものと考えられる。しかし、後述するように、両者は調査対象・調査年・調査単位などが大きく異なり、『毎日新聞経年コーパス』の結果をもって各語の語誌の決定版とすることはできないし、するべきでもない。同じ理由で両者の正確な比較もできないのだが、宮島が言うように「将来の大規模な調査のために、このデータがヒントになることも期待」しつつ、両者を見比べようとするものである。

抽象名詞のみを対象とするのは、紙幅の都合もあるが、その多くが「いろい

ろな分野で共通に使われる, 文章表現の土台を形作る語」(樺島 2004:63), すなわち「叙述系の基本語彙」(石井 2021) や「テキスト構成語」(高崎 2021) として働いていると考えるからである。

## 2. 語誌データの作成手順

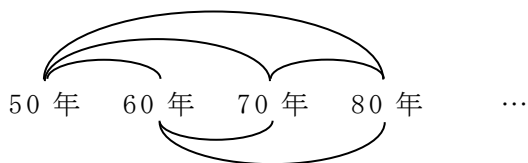
『毎日新聞経年コーパス』は, 本稿筆者が自作したもので, 上の『中央公論』調査に倣って, 『毎日新聞』という等質の資料を 20 世紀半ば以降ほぼ 10 年おきにコーパス化したものである。その詳細は, 金 (2022) を参照されたい。最新の第 4 版に国立国語研究所の『Web 茶まめ』(堤・小木曾 2015) による形態素解析を施して「短単位」の語彙表を作成すると, その語彙量は表 1 のようになる。

表 1 『毎日新聞経年コーパス (第 4 版)』の語彙量 (短単位)

	1950 年	1960 年	1970 年	1980 年	1991 年	2000 年	2010 年	計
延べ	896,768	812,901	1,141,752	1,184,980	1,203,893	1,321,623	1,158,828	7,720,745
異なり	32,801	33,141	37,422	37,812	35,527	39,412	36,183	76,206

この語彙表から, 上述の抽象名詞を抜き出し, それぞれの各年使用度数を (『中央公論』調査と違って各年同じ延べ語数ではないので) 100 万語あたりの換算値に置き換えて, 1950 年から 2010 年までの使用量を求めた。

次いで, 各語の増減傾向を『中央公論』調査の「増加傾向得点」(この名称は本稿筆者によるもの) を用いて数値化した。増加傾向得点とは, ある語の各年の使用度数 (100 万語あたりの換算値) を下図のように比較し, すべての対について, 新 > 古なら +1 点, 新 < 古なら -1 点を与えて合計するものである。『毎日新聞経年コーパス』の場合, それは -21 から +21 の間の値をとり, 値がプラスのものは増加傾向, マイナスのものは減少傾向にあることを示す。



次節においては, こうして求めた, 抽象名詞各語の『毎日新聞経年コーパス』

における各年使用量(100万語あたりの換算値)と増加傾向得点(「増減(新聞)」を分類番号別に示す。『中央公論』データについては、紙幅の都合で各語の各年度数は省略し、増加傾向得点(「増減(雑誌)」)のみを示す。『雑誌用語の変遷』では、増加傾向得点ではなく「新しさ」の数値が添えられているが、異なる年代を対象とするコーパスのデータを相対的な新古で比較することは適当でないと考え、また、『雑誌用語の変遷』の「新しい／古い」という記述を「増えている／減っている」と解釈してもほとんど問題ないことから、増加傾向得点を本稿筆者において計算し、その数値を付すこととした。

掲げる抽象名詞は『雑誌用語の変遷』と同じものとしたが、『毎日新聞経年コーパス』は短単位 of データであるため、「長い単位」としてのみ現れる以下の14語は除いている(カッコ内は分類番号)。

これら(1.100)、それら(1.100)、なんら(1.100)、代表者(1.104)、生活水準(1.1101)、ありかた(1.1300)、可能性(1.1330)、生産性(1.1330)、柔軟性(1.1330)、影響力(1.1400)、生産力(1.1400)、労働力(1.1400)、二十世紀(1.1623)、いくつ(1.1950)

また、言うまでもないことだが、同じ理由から、『毎日新聞経年コーパス』の各年使用量(100万語あたりの換算値)には、自立語としての使用頻度と語構成要素としての使用頻度とが合算されていることにも注意されたい。

このように、『中央公論』調査と『毎日新聞経年コーパス』とは、調査対象のジャンル(前者は雑誌、後者は新聞)、調査年(前者は1906～76年、後者は1950～2010年)、調査単位(前者は「長い単位」、後者は「短単位」)がいずれも異なるため、厳密な意味での比較はできない。繰り返しになるが、本稿は、宮島が述べるように、この種の調査結果が提供されていない現状にあって、将来の大規模な調査に向けて何らかの「ヒント」を提供し得るにとどまるものである。

なお、『中央公論』調査については、宮島のあとを継ぐ調査がなされているが(石井1990, 入江2012)、語誌のデータは示されておらず、参照することができなかった。

### 3. 抽象名詞の意味分野別語誌データ

『雑誌用語の変遷』「第4章 語誌」の、分類番号「1.1」に属する抽象名詞

について、『毎日新聞経年コーパス』の各年使用量（100万語あたりの換算値）と増加傾向得点、および、『中央公論』データの増加傾向得点を、意味分野別に示す。『雑誌用語の変遷』が「すこしでも変化の可能性があるところには、積極的に注意する」とした語群については、表の下部に注記を施すよう努めた。その際、〈雑誌〉は『雑誌用語の変遷』ないし『中央公論』データを表し、〈新聞〉は『毎日新聞経年コーパス』のデータを表している。

### 1.100 こそあど

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
これ	3774.7	4046.0	3521.8	3003.4	1754.3	1268.1	900.9	-19	-22
そ（其）	93.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-6	-16
それ	2085.3	2334.8	2470.8	2197.5	916.2	1091.8	652.4	-11	12
あれ	76.9	67.7	82.3	76.0	38.2	40.1	26.8	-13	-9
どれ	71.4	80.0	87.6	88.6	42.4	74.2	38.8	-5	10
なに	791.7	905.4	1037.9	987.4	599.7	702.2	467.7	-9	-5
どちら	216.3	91.0	78.8	81.9	59.0	66.6	40.6	-17	9
なにごと	23.4	13.5	11.4	20.3	2.5	12.9	6.9	-11	-9
なにもの	11.2	0.0	2.6	2.5	5.8	5.3	0.9	-3	-1
あれこれ	2.2	16.0	12.3	14.3	2.5	8.3	2.6	-3	11
おのおの	53.5	6.2	0.9	1.7	3.3	0.8	0.9	-12	-5
前者	23.4	18.5	14.9	10.1	6.6	7.6	1.7	-19	-11
後者	23.4	17.2	14.9	17.7	5.8	8.3	2.6	-15	-3
他方	16.7	29.5	20.1	17.7	12.5	3.8	6.9	-13	8
もの	4670.1	5108.9	4200.6	3498.8	1756.8	1466.4	875.0	-19	-24

〈雑誌〉では、「それ」「どちら」「他方」が増えているものの、「一般に、〈こそあど〉の使用はへっている」とする。〈新聞〉では、すべての語が減っていて、その傾向が徹底している。

### 1.101 事柄

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
こと（事）	9482.9	9120.4	8571.0	8437.3	5856.8	5832.2	4467.4	-21	10
事柄	30.1	6.2	5.3	11.8	6.6	6.8	0.0	-7	-16
事件	986.9	682.7	652.5	929.1	758.4	771.0	869.0	1	12
事故	72.5	161.2	386.2	240.5	319.0	317.8	244.2	7	9
大事	12.3	11.1	1.8	6.8	1.7	1.5	6.0	-13	-7
万事	13.4	9.8	7.0	11.0	0.8	15.9	0.9	-5	-10
対象	104.8	148.8	223.3	255.7	336.4	371.5	388.3	21	16

〈雑誌〉では「こと」が増えているが、〈新聞〉では減っている。〈雑誌〉では「事件」「事故」も増えているが、〈新聞〉では、「事故」は増えているものの、「事件」は変わらない。

### 1.103 真・実

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
現実	174.0	264.5	242.6	216.0	130.4	120.3	99.2	-15	17
現象	54.6	51.7	83.2	83.5	55.7	38.6	31.1	-7	-9
事実	472.8	311.2	339.8	404.2	363.0	236.1	217.5	-11	6
実際	225.3	180.8	179.5	141.8	131.2	142.2	107.9	-17	-2
実	174.0	171.0	148.9	166.2	117.1	116.5	131.2	-15	-11
真	89.2	78.7	81.5	78.5	38.2	38.6	30.2	-17	-9
真実	39.0	23.4	21.9	22.8	19.1	21.2	20.7	-15	-3
真理	24.5	7.4	2.6	9.3	9.1	55.2	5.2	-1	-11
秘密	132.7	77.5	57.8	96.2	55.7	47.7	43.1	-17	-7

〈雑誌〉では「現実」「事実」が増えているが、〈新聞〉ではどちらも減っている。

### 1.104 本体

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
ほか	620.0	791.0	727.0	596.6	509.2	508.5	449.6	-17	-6
他	980.2	497.0	327.6	351.1	308.2	210.3	259.7	-17	-12
かわり	90.3	94.7	69.2	72.6	50.7	50.7	45.7	-16	-1
代表	1267.9	973.1	756.7	667.5	789.1	936.7	1300.5	1	15

### 1.1101 等級・系列

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
標準	68.0	65.2	49.0	22.8	32.4	70.4	29.3	-7	-13
基準	142.7	157.5	279.4	203.4	198.5	205.1	188.1	5	10
水準	102.6	142.7	112.1	217.7	117.1	109.0	107.9	-3	12

〈雑誌〉では『標準』と『基準』が入れかわるかっこうになっている。〈新聞〉でも「標準」が減って「基準」が増えている。また、〈雑誌〉で「戦後におおい」とされる「水準」が、〈新聞〉では明確な増減傾向を見せていない。

## 1.1110 関係

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
関係	1042.6	1057.9	1303.3	1242.2	1167.9	950.3	941.5	-7	-5

## 1.1111 本

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
基礎	131.6	107.0	93.7	79.3	106.3	79.4	67.3	-15	-6
根底	6.7	12.3	8.8	16.0	19.9	14.4	8.6	5	-14
根本	153.9	132.9	77.1	43.9	30.7	31.8	19.8	-19	9

〈雑誌〉では『根底』と『根本』のあいだに、時代的な差があるかもしれない」とされるが、〈新聞〉では「根本」が減って「根底」がやや増えており、逆の傾向となっている。

## 1.1112 因果

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
影響	250.9	305.1	355.6	398.3	317.3	407.1	477.2	17	7
結果	823.0	671.7	627.1	642.2	527.5	544.0	509.1	-17	0
効果	131.6	203.0	202.3	178.1	159.5	207.3	240.8	9	11
成果	79.2	87.3	101.6	97.9	109.6	115.8	103.6	15	13
原因	175.1	306.3	294.3	216.0	147.9	174.0	157.9	-11	-2
要因	14.5	36.9	61.3	60.8	74.8	65.8	74.2	15	9
条件	294.4	382.6	361.7	271.7	283.2	176.3	145.8	-15	12
前提	47.9	64.0	81.5	73.4	111.3	70.4	65.6	5	11

〈雑誌〉では『条件』がやや新しい方にかたよっている」が、〈新聞〉では減っている。「結果」も、〈雑誌〉では変わらないが、〈新聞〉では減っている。

## 1.1113 理由・目的・証拠

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
証拠	99.2	94.7	70.1	63.3	29.9	41.6	185.5	-7	5
理由	349.0	330.9	349.5	362.9	338.9	279.2	284.8	-7	-1
根拠	63.6	60.3	55.2	40.5	63.1	46.9	41.4	-11	11
ゆえ	70.3	30.8	10.5	29.5	8.3	15.9	18.1	-9	-24
ゆえん(所以)	15.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-6	-14
ため(為)	2864.7	3004.1	2935.8	2910.6	2731.1	2285.8	2746.7	-11	0
目的	288.8	241.1	237.4	211.0	227.6	236.1	164.8	-15	11
目標	149.4	220.2	216.3	205.9	160.3	196.0	265.8	3	7



『ゆえ』と『ゆえん』が文体的に古いこと」は、〈雑誌〉も〈新聞〉も変わらない。

### 1.1120 異同

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
ちがい	89.2	145.2	155.0	135.9	93.9	126.4	76.8	-7	17
相違	82.5	39.4	36.8	24.5	10.8	6.1	4.3	-21	-4

〈雑誌〉では「『ちがい』は『相違』にくらべてやや新しい」。〈新聞〉でも「ちがい」より「相違」の方が早く、より大きく減っている。

### 1.1130 相対

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
逆	107.1	182.1	160.3	197.5	134.6	146.8	78.5	-5	15
反対	682.5	708.6	495.7	440.5	451.0	233.0	213.1	-17	6
矛盾	39.0	76.3	45.5	48.1	17.4	31.0	19.0	-9	2

### 1.1240 存在

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
存在	111.5	116.9	186.6	151.9	122.1	198.2	176.9	11	10
独立	217.4	209.1	125.2	115.6	268.3	171.8	131.2	-5	-1
対立	205.2	282.9	184.8	137.6	162.0	113.5	104.4	-17	11

〈雑誌〉では「『対立』は戦後だけにあらわれる」。〈新聞〉では 1960 年までは増えるものの、70 年以降は減っている。

### 1.1300 様相

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
ありさま	30.1	43.1	21.0	15.2	2.5	3.8	4.3	-13	-19
ようす	35.7	62.7	54.3	61.6	67.3	100.6	92.3	15	-5
状況	178.4	110.7	190.9	303.8	295.7	314.8	308.9	15	12
状態	311.1	274.3	262.8	262.5	217.6	236.8	208.8	-19	11
現状	137.2	190.7	188.3	125.7	124.6	127.9	107.9	-13	12

〈雑誌〉では「このグループには、新しいところでふえたものがおおいが、『ありさま』だけは、逆にへっているようである」。〈新聞〉でも「ありさま」は減っているが、〈雑誌〉で増えている「状態」「現状」も減っている。

## 1.1301 情勢

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
事情	201.8	161.2	211.1	216.9	143.7	131.7	149.3	-7	-1
事態	239.7	195.6	163.8	222.8	196.9	113.5	126.0	-11	13
情勢	413.7	286.6	267.1	334.2	206.0	80.2	112.2	-15	0
形勢	17.8	33.2	11.4	10.1	5.0	12.1	2.6	-13	-11
大勢	34.6	1.2	0.9	0.8	0.0	3.8	0.9	-8	-1
傾向	148.3	255.9	167.3	172.2	102.2	81.0	118.2	-9	2
時勢	0.0	0.0	4.4	0.8	0.0	0.0	0.0	-3	-9

〈雑誌〉では「事態」が増えているが、〈新聞〉ではこのグループの語はすべて減っている。

## 1.1302 趣き

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
おもむき	5.6	6.2	7.9	5.1	4.2	3.8	4.3	-11	-7
気配	22.3	22.1	29.8	32.9	20.8	11.3	11.2	-11	3

## 1.131 風・観・姿

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
風(ふう)	35.7	76.3	47.3	34.6	24.1	40.1	63.0	-1	-17

## 1.132 内容・組織

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
内容	324.5	302.6	401.1	385.7	353.0	321.6	254.6	-7	-2
組織	305.5	365.4	342.5	295.4	328.1	285.3	244.2	-13	-4

## 1.1330 性質

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
性質	41.3	35.7	27.2	14.3	5.8	9.8	6.0	-17	-10
性格	122.7	125.5	114.7	84.4	50.7	48.4	22.4	-19	9

〈雑誌〉では『性質』と『性格』とでは、後者の方が新しい」が、〈新聞〉ではどちらも減っている。

## 1.1331 特徴

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
特色	22.3	64.0	51.7	23.6	17.4	18.9	6.0	-13	0
特徴	44.6	92.3	105.1	83.5	83.9	62.0	54.4	-5	15

〈雑誌〉では『特徴』は新しいところにかたよっている」が、〈新聞〉では両語とも 1970 年ごろまでは増え、その後は減っている。

## 1.1344 美醜・難易など

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
困難	269.9	150.1	134.9	105.5	89.7	101.4	93.2	-17	3
都合	42.4	46.7	28.0	45.6	21.6	28.0	23.3	-10	15

## 1.1400 力

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
力	258.7	414.6	305.7	344.3	245.9	257.3	278.7	-5	-2
実力	88.1	159.9	66.6	86.9	75.6	50.7	45.7	-15	-12
勢力	204.1	200.5	168.2	130.0	98.8	127.1	107.9	-17	-2

## 1.1503 変換

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
一定	58.0	56.6	73.6	55.7	55.7	72.6	85.4	4	-14
転換	52.4	93.5	151.5	140.1	136.2	136.2	98.4	2	19

〈雑誌〉では「意味的に対立するこの 2 つは、おぎないあうように分布している」が、〈新聞〉にはそうした傾向は見られない。

## 1.1510 動き

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
運動	432.7	580.6	554.4	538.4	330.6	202.0	176.9	-15	9
活動	318.9	236.2	353.0	315.6	515.0	413.1	409.0	9	-11

〈雑誌〉では『活動』から『運動』へという変化がみられそうである」が、〈新聞〉では逆に「運動」が減って「活動」が増えている。

## 1.1520 過程・経路

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
過程	23.4	40.6	63.1	72.6	56.5	56.7	46.6	5	22
動向	45.7	67.7	76.2	100.4	73.9	81.7	51.8	5	19

〈雑誌〉では「これらはともに新しい」が、〈新聞〉でも似たような増減傾向を見せている。

## 1.1526 進退

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
進退	12.3	1.2	11.4	17.7	9.1	12.1	27.6	7	1

## 1.1528 往復

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
帰国	221.9	221.4	167.3	157.8	230.1	56.0	78.5	-11	15

## 1.1562 圧迫・抵抗

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
圧迫	40.1	44.3	26.3	20.3	19.9	16.6	28.5	-11	-7
抑圧	3.3	4.9	14.9	26.2	10.0	1.5	0.9	-5	6
抵抗	91.4	45.5	90.2	85.2	68.9	57.5	51.8	-11	11

〈雑誌〉では『圧迫』と『抑圧』が入れかわっている。〈新聞〉でも1980年までは同様の傾向が見られるが、それより後は「圧迫」より「抑圧」の減り方の方が大きい。

## 1.1584 発達・消長

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
進化	1.1	6.2	19.3	8.4	3.3	22.7	21.6	11	-16
進展	60.2	33.2	96.3	36.3	57.3	74.9	31.1	-3	-1
進歩	92.6	110.7	74.4	32.1	18.3	22.7	15.5	-17	-13
発達	43.5	65.2	65.7	29.5	15.8	18.2	17.3	-11	-13
発展	163.9	230.0	249.6	177.2	140.4	125.6	107.9	-13	5

〈雑誌〉では『進化』『進歩』『発達』は古いところにあり、『発展』は新しいところにある。〈新聞〉では、これらはみな1970年あたりまでは増え、その

後は減っている。

### 1.160 位置・地点・場合

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
位置	40.1	46.7	62.2	88.6	108.8	119.5	153.6	21	-14
地位	126.0	120.6	69.2	72.6	39.9	57.5	29.3	-17	2
立場	342.3	382.6	340.7	292.0	241.7	153.6	124.3	-19	15
ばあい	799.5	946.0	861.0	726.6	532.4	450.2	394.4	-17	23
段階	156.1	187.0	254.0	238.8	228.4	151.3	137.2	-7	16

〈雑誌〉では『ばあい』『立場』は新しいところにおおく、『位置』は古いところにおおいが、〈新聞〉では「地位」「段階」も含めて〈雑誌〉と正反対の傾向となっている。

### 1.1610 時間

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
とき(時)	915.5	1198.2	1264.7	1149.4	569.8	789.9	535.9	-11	12
時間	594.4	711.0	737.5	767.1	857.2	843.7	896.6	19	9

### 1.1611 時機

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
時期	149.4	200.5	169.9	231.2	193.5	204.3	140.7	1	9
機会	157.2	172.2	112.1	113.1	68.1	90.8	95.8	-11	-10
危機	181.8	125.5	118.2	261.6	320.6	189.9	272.7	9	13
いつ(何時)	249.8	313.7	296.9	309.7	174.4	237.6	163.1	-11	-6

### 1.1612 時刻

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
ころ	521.9	741.8	518.5	464.1	441.9	393.5	325.3	-19	-2
時分	0.0	2.5	0.9	0.8	0.0	0.8	0.0	-7	-1

## 1.1613 毎日・平生

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
毎日	347.9	316.2	324.9	304.6	510.8	532.7	634.3	11	5
毎月	17.8	41.8	31.5	38.0	24.1	34.8	25.9	-1	9
毎年	0.0	77.5	86.7	103.0	53.2	62.0	74.2	3	-1
ひとたび	14.5	4.9	1.8	2.5	0.0	0.0	2.6	-10	-19
一旦	59.1	55.4	63.9	53.2	51.5	43.9	27.6	-17	-11

〈雑誌〉では『ひとたび』は古いことばであろう」とするが、〈新聞〉でも同様である。

## 1.1621 永久・一生

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
永久	23.4	23.4	27.2	11.0	7.5	7.6	4.3	-14	-7
永遠	12.3	8.6	11.4	10.1	12.5	12.9	6.9	1	-11
一生	23.4	44.3	42.0	47.3	32.4	47.7	43.1	7	-11
生涯	11.2	16.0	35.9	26.2	45.7	33.3	19.8	7	3

〈雑誌〉では『永久』『永遠』をかたるとは、最近、すくなくなつたのかもしれない。『一生』がへつたのはなぜだろうか」とするが、〈新聞〉では明確に減っているのは「永久」だけである。

## 1.1623 時代

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
時代	209.6	460.1	487.8	539.2	488.4	597.0	441.8	9	3
世	40.1	27.1	33.3	18.6	8.3	22.7	15.5	-13	-10
世代	6.7	14.8	63.1	104.6	114.6	193.7	113.9	17	7
中世	7.8	4.9	15.8	13.5	5.0	13.6	3.5	-3	8
近世	1.1	3.7	0.9	11.0	0.8	3.8	2.6	1	-3
近代	103.7	166.1	126.1	162.9	46.5	34.8	43.1	-11	-4
現代	87.0	152.5	159.4	162.0	103.8	107.4	98.4	-1	-4

〈雑誌〉では『世』はやや古いであろう。『世代』は新しいのだろうか」とする。〈新聞〉でも「世」は減り、「世代」は増えている。

## 1.1624 季節

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
季節	14.5	76.3	63.9	74.3	24.1	39.3	57.0	-1	-13
春	65.8	153.8	160.3	185.7	138.7	114.3	162.2	5	-5
夏	66.9	159.9	155.9	226.2	153.7	146.8	200.2	3	3
秋	92.6	201.7	130.5	175.5	129.6	132.4	143.2	3	-10
冬	44.6	64.0	63.9	64.1	40.7	43.1	46.6	-3	1

〈雑誌〉では「それぞれの季節をあらわすことばの使用度数は大差ない」が、〈新聞〉では各年とも「冬」の使用度数が最も小さい。

## 1.1641 現在

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
いま	1169.8	1141.6	1258.6	1124.1	763.4	796.0	594.6	-15	-3
現在	983.5	836.5	828.6	720.7	546.6	775.6	1393.6	-5	14
きょう (今日)	47.9	401.0	304.8	276.8	218.5	173.3	107.0	-9	0
今日	182.9	9.8	6.1	7.6	1.7	2.3	0.9	-17	-18
ことし	184.0	426.9	684.0	766.3	628.8	604.6	579.9	3	14
今夜	7.8	12.3	4.4	8.4	5.0	1.5	6.0	-7	-5

〈雑誌〉では『『今日 (こんにち)』は、へりつつある』。〈新聞〉でも同様だが、これは、『毎日新聞経年コーパス』を『Web 茶まめ』で解析する際、旧仮名遣いが部分的に残る 1950 年のみ「旧仮名口語」辞書を用い、他は「現代語」辞書を用いたこと (金 2022:241) による、つまり、「今日」を「旧仮名口語」辞書は「コンニチ」と読み、「現代語」辞書は「キョウ」と読んだことによるものであり、実態を正しく把握したものとは言えない。

## 1.1642 過去

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
古 (いにしえ)	8.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	15.5	3	-9
過去	119.3	137.8	117.4	173.0	239.2	297.4	262.3	15	4
きのう (昨日)	68.0	24.6	22.8	15.2	15.8	22.7	8.6	-15	-17
昨年	498.5	720.9	932.8	1011.0	972.7	825.5	816.3	5	17
もと (元)	520.8	369.0	364.4	632.9	1147.9	972.3	1481.7	13	-11
昔	62.4	152.5	141.9	114.8	53.2	66.6	66.4	-7	6
このあいだ	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	-2	-13
最近	438.2	573.3	493.1	405.1	199.4	187.6	140.7	-17	9
従来	220.8	188.2	194.4	156.1	142.0	120.3	139.8	-17	-2
本来	27.9	72.6	70.9	85.2	64.8	68.1	71.6	3	-11

〈雑誌〉では『いにしえ』や『従来』『本来』は、へっているのかもしれないが、はっきりしない」とする。〈新聞〉では「いにしえ」はほとんど使われず、「本来」もはっきりした傾向は見られないが、「従来」はゆるやかだが確実に減っている。

### 1.1643 未来

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
未来	8.9	35.7	93.7	54.9	28.2	72.6	66.4	7	7
将来	263.2	188.2	263.6	215.2	178.6	231.5	151.9	-9	-3
今後	605.5	553.6	610.5	521.5	522.5	382.9	315.8	-15	2

### 1.1650 順序

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
先	315.6	311.2	302.2	345.2	347.2	771.0	334.8	9	13
次第	161.7	150.1	116.5	113.1	57.3	75.7	68.2	-17	-8

### 1.1651 終始

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
終始	20.1	29.5	25.4	21.1	21.6	12.1	8.6	-11	-5
はじめ	102.6	403.5	347.7	256.5	181.9	129.4	87.2	-11	0
最初	233.1	147.6	175.2	126.6	107.2	177.1	119.1	-9	13
最後	304.4	251.0	197.9	254.0	249.2	280.7	206.2	-5	-1

### 1.166 新旧・遅速

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
同時	269.9	222.7	241.7	234.6	210.2	125.6	126.9	-15	4

### 1.1670 前後

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
あと(後)	118.2	858.7	912.6	952.8	711.0	1131.9	582.5	5	22
後	604.4	143.9	44.7	27.0	9.1	5.3	6.9	-19	-11
戦後	298.9	281.7	194.4	180.6	192.7	123.3	86.3	-19	20
当時	191.8	190.7	304.8	308.9	290.7	295.1	359.8	11	-2
つぎ(次)	1662.6	840.2	488.7	316.5	269.1	265.6	167.4	-21	2
以前	74.7	96.0	86.7	90.3	82.2	100.6	66.4	-1	-3
以後	75.8	109.5	119.1	92.8	54.0	31.8	14.7	-13	0
以来	471.7	374.0	380.1	419.4	355.5	303.4	295.1	-15	9



〈雑誌〉では『『あと』はあきらかに新しい方にかたよっている」。〈新聞〉でも1980年まで増えているが、これも、1.1641の「今日」と同様、『Web茶まめ』が「後」を「アト」と読むか「ノチ」と読むかという問題があるため、この結果をそのまま受け取ることはいできない。

#### 1.1671 翌・後日・当面など

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
今度	420.4	616.3	462.4	218.6	76.4	65.8	42.3	-17	3
当面	11.2	30.8	67.4	79.3	65.6	21.2	25.9	1	8

#### 1.170 空間・場所

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
ところ	1485.3	1620.1	1594.0	1425.3	683.6	588.7	339.1	-17	-21
場所	105.9	323.5	207.6	185.7	227.6	261.0	421.1	11	0
ここ（此所）	410.4	531.4	373.1	379.8	207.7	245.2	166.5	-15	-3
そこ（其処）	351.3	418.3	432.7	399.2	147.0	216.4	149.3	-9	11
どこ	180.6	230.0	254.9	238.0	157.8	196.7	128.6	-7	-3
いずこ	3.3	3.7	1.8	0.0	1.7	1.5	0.0	-14	-9

〈雑誌〉では『『ところ』はへってきているようである。（中略）おおくは、『かれの信ずるところでは』など、抽象的な用法である」とする。〈新聞〉でも1991年以降大きく減っている。

#### 1.1730 方向・たてよこ

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
方向	123.8	127.9	199.7	190.7	161.1	167.2	132.9	3	19

#### 1.1731 方面・方角

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
方面	305.5	110.7	49.0	45.6	15.8	20.4	6.9	-19	-15

〈雑誌〉では『『方面』にくらべて『方向』は新しいところにおおい」。〈新聞〉でも「方面」は減っており、「方向」はあまり増減なく安定して使われている。

## 1.1741 上下

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
上	544.2	712.3	578.9	589.0	468.5	495.6	439.2	-11	-4
下	259.8	203.0	158.5	147.7	113.0	143.8	132.0	-17	-6

## 1.1742 中・かみ・しも・頂・すみ

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
なか(中)	947.8	1128.1	1352.3	1510.6	1082.3	911.8	745.6	-7	14

## 1.176 前後・間端

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
まえ	815.1	1102.2	1200.8	1123.2	1237.7	1324.1	1252.1	17	0
うしろ	13.4	28.3	46.4	40.5	29.1	29.5	20.7	1	-19
間	686.9	692.6	664.8	624.5	396.2	316.3	212.3	-19	0

## 1.1770 内外

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
うち(内)	685.8	709.8	686.7	712.2	625.5	469.9	437.5	-11	-13
外	35.7	72.6	82.3	89.5	59.0	67.3	67.3	2	1

## 1.178 ふち・そば・まわり・沿い

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
あたり(辺)	199.6	120.6	60.4	54.0	26.6	26.5	16.4	-21	5
まわり	7.8	30.8	40.3	47.3	25.7	41.6	28.5	5	9
周囲	29.0	44.3	42.9	40.5	34.9	63.6	61.3	7	-15
付近	258.7	158.7	110.4	102.1	66.5	57.5	79.4	-17	1

## 1.180 形・型・姿・構え

語	50年	60年	70年	80年	91年	00年	10年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
かたち	221.9	367.8	313.6	273.4	250.9	239.9	201.1	-11	10
型	35.7	72.6	18.4	14.3	5.8	9.1	6.0	-15	0
姿	185.1	217.7	232.1	252.3	174.4	236.8	215.7	3	4
かっこう(格好)	7.8	27.1	63.9	44.7	38.2	41.6	34.5	3	14
姿勢	10.0	136.5	287.3	351.9	368.8	267.9	325.3	11	12

「姿勢」は、〈雑誌〉では1966年から現れるが、〈新聞〉でも1960年から急増している。〈雑誌〉で「抽象的な意味でつかわれたものだけである」ことは、

〈新聞〉でも同様であろう。

### 1.1950 一二三

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
一	12247.3	10788.5	10568.8	11347.0	16537.2	25887.9	31116.8	13	4
二	6597.0	7394.5	7262.5	8220.4	12482.8	18251.0	20826.2	19	7
三	5697.1	6313.2	6437.5	7192.5	9760.0	13508.4	15684.8	21	9
四	498.5	279.2	254.0	279.3	451.0	616.7	677.4	11	-2
五	4972.3	5181.4	5221.8	5838.9	7671.8	10204.9	11642.8	21	2
十	6816.7	5459.5	5269.1	4906.4	4826.8	211.1	177.8	-21	2
いくら	0.0	57.8	37.7	35.4	15.8	19.7	3.5	-7	-3
いくばく	4.5	0.0	0.0	1.7	1.7	0.8	0.0	-5	-3

### 1.1951 多少

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
多数	278.8	185.8	113.9	162.0	167.0	124.8	107.9	-13	-12

### 1.1972 過不足

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
あまり (に)	39.0	66.4	79.7	77.6	100.5	63.6	65.6	3	-9

### 1.1980 一般・全体・部分

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
一般	564.2	476.1	416.0	360.3	303.2	241.4	190.7	-21	-1
全体	160.6	249.7	259.3	266.7	294.0	215.6	220.9	5	-5
全部	228.6	142.7	156.8	85.2	33.2	38.6	19.0	-17	2
部分	249.8	219.0	207.6	216.0	196.9	157.4	114.8	-19	0

### 1.1981 群・組・対

語	50 年	60 年	70 年	80 年	91 年	00 年	10 年	増減 (新聞)	増減 (雑誌)
集団	82.5	184.5	134.0	104.6	96.4	106.7	77.7	-7	13
グループ	35.7	201.7	285.5	426.2	348.0	397.2	282.2	9	11
両者	79.2	61.5	52.6	27.0	33.2	31.0	23.3	-17	-1
両方	26.8	18.5	22.8	12.7	16.6	14.4	11.2	-15	7

〈雑誌〉では『集団』『グループ』はともにあたらしい。〈新聞〉では「グループ」は増えているが、「集団」は1960年をピークに減っている。

## 引用文献

- 石井久雄(1990)『『中央公論』1986年の用語』『国立国語研究所報告 101 研究報告集 11』pp.1-40, 秀英出版
- 石井正彦(2001)「新聞社説の叙述系基本語彙」『現代日本語研究』13, pp. 65-84, 大阪大学
- 入江さやか(2012)「『中央公論』101年の高頻度語彙および増減傾向」『同志社日本語研究』16, pp.14-25, 同志社大学大学院日本語学研究会
- 樺島忠夫(2004)『日本語探検—過去から未来へ』角川書店(角川選書 361)
- 金 愛蘭(2022)「現代「語彙史」研究のためのコーパスと統計—『毎日新聞経年コーパス』による語の増減傾向の分析—」『計量国語学』33-4, pp. 233-248, 計量国語学会
- 国立国語研究所(1987)『雑誌用語の変遷』秀英出版
- 高崎みどり(2021)『テキスト語彙論：テキストの中でみることばのふるまいの実際』ひつじ書房
- 堤 智昭・小木曾智信(2015)「歴史的資料を対象とした複数の UniDic 辞書による形態素解析支援ツール『Web 茶まめ』」『じんもんこん 2015 論文集』179-184, <http://id.nii.ac.jp/1001/00146542/>

## 付記

本稿は、JSPS 科研費 JP22K00594（課題名「大規模通時コーパスを用いた現代新聞文章の叙述基本語の発見とその成立過程の解明」）の助成を受けた研究成果の一部である。

（日本大学文理学部准教授）